

中長期目標 (学校ビジョン)	(1) 心身ともに健康な自立した社会人にするために、体育・徳育を重視し基本的な生活習慣を確立させる。 (2) 問題解決過程を重視した授業を構築し、学習意欲を高める。 (3) 試行実践の場を活用することにより論理的思考力・問題解決能力・コミュニケーション力を高める。 (4) 社会貢献の観点に立った進路指導を展開する。	今年度の重点目標	(1) 良き生活習慣の確立 (2) 学ぶ意味を理解させる授業の構築 (授業改革の深化) (3) 人間力を高める生徒指導
-------------------	---	----------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (3) 月		
評価項目	具体的項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
良き生活習慣の確立	① 爽やかな挨拶が出来る	○教務室などの出入りや廊下での挨拶は概ねできている。 ○添削など指導を願う際、相手(教員)の都合などに留意しながら願い出ることができる生徒が増えた。 ▲敬語で話せない生徒が少数いる。 ▲挨拶の声が小さかったり、気持ちの入ったものになっていない生徒がある。 ▲挨拶をしない生徒へ職員が注意をすることが少ない。	①校内・校外を問わず、自然に自分から心のもった挨拶ができる。また、相手の状況に応じた適切なコミュニケーションがとれる。	①-1 挨拶することの意味をSHR、授業、集会、部活動等の機会をとおして適宜生徒に伝え、学校全体での意識をあげる。 ①-2 教員から率先して挨拶を行い、お互いの挨拶を習慣化するとともに、挨拶できていない生徒に対して、その場での徹底を全職員が意識して行う。 ①-3 生徒会執行部を中心にして、生徒が互いに挨拶を交わす機会を増やす。			
	② 身の回りの環境を整える(服装、清掃)	【服装】 ○夏服の下シャツや冬服の下からセーター等を出す生徒は少なく、ほとんどの生徒が守れた。 ○ボランティアにおいてふさわしい身だしなみやマナー・礼儀が守れた。 ▲一部の生徒でスカート丈について指導が必要であった。	【服装】 ①ほとんどの生徒が正しい制服の着方をしてる。 ・夏服:シャツだしをしない ・冬服:セーター出しをしない ・男子:ズボンを下げない ・女子:スカートの丈の長さを守る	【服装】 ①継続的に全体指導を行うとともに、服装が乱れている生徒には、その都度正すよう指摘する。指導にのりにくい生徒については、多くの教職員が関わり指導を徹底するとともに、保護者の協力をあおぎ、改善させる。			
	③ 時間を意識し、今、何をすべきかを考えて行動する	【清掃等】 ○教室のゴミの分別状況も良好であり、ゴミの量自体が昨年度に比べ少ない。 ▲清掃の取組は全体的に意欲的であるが、指示されないと動けない生徒がいる。 ▲部室のゴミの分別が不十分である。 ▲ゴミの持ち帰りが徹底できていない。 ▲清掃時間外で美化に努める生徒が少ない。	【清掃等】 ②時間一杯自主的に清掃に取組み、普段から整理整頓に努め、ゴミ拾いを行うことができる。	【清掃等】 ②-1 清掃開始の時間を守り、清掃の徹底を図る。 ②-2 清掃への取組方法を適宜指導し、率先して美化に努めることを促す。 ②-3 TEASと関連づけ、ゴミの持ち帰りや分別、減量化に努めさせる。 ②-4 部長会や顧問の指導により、部室の使用法を日頃から意識させ、部室のゴミ出し指導を定期的に行う。 ②-5 教室ロッカーの整理・整頓を行う。 ②-6 清掃用具等の整備を行う。 ②-7 LHR等を活用した清掃活動・美化活動に取り組む。 ②-8 生徒会や環境保健委員会等を中心として、生徒主体の取組を実施する。			
		【時間】 ○遅刻について随時指導を行った結果、全体的に遅刻者は少なかったが、遅刻者目標達成には至らなかった。(一人年平均1.3回) ○全校集会の集合時間は守れた。 ▲ステージによっては、特定の生徒の遅刻が目立ったり、年度目標に至らないステージがあった。 ▲4点固定を実践している生徒に限られている。 ▲授業始業の意識が低く、始まって授業の用意ができていない生徒がいる。 ▲部活動引退後、平日においては受験生として安定した学習習慣を構築できるものも増えたが、休日においては、家庭において望ましい学習習慣が構築できない生徒が多数あった。(S3)	【時間】 ①遅刻をしないなど、時間を守る大切さを認識し、規則正しい生活を送ることができる。 【遅刻防止の目標】 回数 一人年平均1回以下 ②4点固定を日常的に実施するなど、生活リズムが整い、学習習慣が確立している。	【時間】 ①-1 遅刻数など、生徒状況を常に把握し、保護者との連携を密にしてタイムラグのない指導を心がける。 ①-2 遅刻を繰り返す生徒には、その都度声かけをし、家庭にも連絡を取るなど、生活の改善を促す。 ②-1 4点固定の定着を図るため、「生活の軌跡」等で生徒の生活を検証し、面談指導等を通して指導する。 ②-2 授業の準備をしてから始業を待つことを徹底し、時間を守る意識を高める。 ②-3 携帯電話等の使い方が適切なものとなるよう、保護者との連携を密にする。			
		【提出物】 ○提出物が9割以上の生徒が期限内に提出できている。 ▲期限内に提出できない生徒は固定化されている。 ○ミッタシステムが提出物の保護者への周知に有効であった。	【提出物等】 ③全ての生徒が期限内に提出物を出すことができる。	【提出物等】 ③-1 全ステージにおいて、提出物の意義を指導し、提出の徹底を図る。 ③-2 課題については各ステージで教科との連携を密にし、指導を徹底する。			
	① 思考力、判断力、表現力を高める	○生徒が主体的に授業に向かう姿勢は全学年で向上している。 ○生徒に発言を促したり、論述する授業を心がけており、一定の成果は上がってきている。 ▲課題・小テストの準備と部活動に時間を費やし、プラスαの活動ができていない。 ▲選択授業が多く、自由に発言する雰囲気を作ることが難しい。	①生徒が目標を持って主体的に授業に取り組む、論理的に自分の考えを表現することができる。 ②学びの過程を大切にしたい学びあいが、どの授業においても日常的に行われている。	①授業で意識的に表現活動を取り入れたり、記述・論述する機会を増やし論理的に思考する習慣をつけさせる。 ②教科会の充実、校内研究授業の継続及び充実、先進校の視察をとおして授業研究を充実させる。			

評価項目	具体的項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
学ぶ意味を理解させる授業の構築(授業改革の深化)	②学ぶことの意味を理解し、主体的に学ぶ意欲を高める	<p>○S3の家庭学習時間は7月までは少ないが、その後は学習会や大山合宿を通し、学習が軌道に乗ってきている生徒も多数みられ、2学期からは、家庭学習時間は平均5時間以上確保した。</p> <p>S3:総体以降5時間以上の生徒55.7%</p> <p>○鳥取大学のオープンキャンパスで大学での学びをイメージできた。</p> <p>○S3大山勉強合宿に95(149名中)名が参加した。</p> <p>○国公立一般試験出願数延131名(前年88名)で、最後まで受験に向かう生徒が多くなった。</p> <p>○テスト前に勉強用プリントによる工夫で得点率の上がった科目がある。</p> <p>▲S1・2の家庭学習時間が少ない。</p> <p>S1:2時間以上の生徒24.3%</p> <p>S2:2時間以上の生徒20.5%</p> <p>▲生活の軌跡を利用して、自分の生活を見直そうとする生徒が限られている。</p> <p>▲一部で将来の目標が見出せず、学習に結びついていない。</p> <p>▲課題の提出状況は概ね良好だが、学力向上に結びついていない。</p>	<p>①学習目標を明確に持ち、積極的に学習している。</p> <p>②身近な先輩の体験談を通して学ぶことの必要性を理解し、主体的に学んでいる。</p> <p>③授業を中心に予習、復習を行い、一定の家庭学習時間が確保できている。</p> <p>【家庭学習時間目標】</p> <p>S1・S2:2時間以上の生徒が50%以上</p> <p>S3:5時間以上の生徒が50%以上</p> <p>④課題の意味を理解し、課題提出状況が95%以上となっている。</p>	<p>①年度初めにその教科を学ぶ意味や目的を明示するとともに、各授業においては単元観と単元目標を提示する。</p> <p>②上級生やOB、OGによる講話の機会をととして、学ぶことの意義を考えさせるとともに、自主性が高まるよう刺激する。</p> <p>③生活の軌跡を活用して、面談をととして家庭での学習習慣の指導を行う。</p> <p>④課題提出は生徒個々の理解度の把握であることを教員が共通認識し、「出したささない」の評価にとどめない。</p>			
		<p>【チャレンジグループ活動】</p> <p>○チャレンジグループ活動での社会人の講演により進路意識を持たせることができた。</p> <p>○チャレンジグループ活動の個人研究の進捗状況をこまめに確認し、研究に対するアドバイスをを行うことで活動の充実と生徒の意欲を喚起した。</p> <p>○進路講演会を通して生徒や保護者に最新情報を提供した。</p> <p>▲社会的知識が不足、社会に対する関心が希薄な生徒が多い。</p> <p>▲教員にチャレンジグループ活動に取り組むための余裕がない。</p> <p>【パイオニアホーム】</p> <p>▲パイオニアホーム企画の計画が遅れたため、一部夏休みを活用できなかった。</p> <p>【図書館活用】</p> <p>○フィールドワークイン関西の事前活動として図書館を活用して情報収集し見学の視点を明確にできた。</p> <p>○県立図書館・博物館の見学を実施し、進路や文化活動の視野を広げた。</p> <p>【その他】</p> <p>○生徒会行事の企画・運営は、生徒が主体的にできるようになってきたが、学習などその他の取り組みまで及んでいない。</p>	<p>【チャレンジグループ活動】</p> <p>①自分自身が社会の一員であるという自覚を持っている。</p> <p>②将来を意識し、上級学校における学びに向けて、積極的に考え行動している。</p> <p>③チャレンジグループ活動をととして、自らの進路を明確にし、将来、社会に貢献できる力を身につけている。</p> <p>【パイオニアホーム】</p> <p>④学校におけるパイオニアとしての自覚を持ち、自主的・主体的に学校行事に取り組んでいる。</p> <p>【図書館活用】</p> <p>⑤氾濫する情報から必要なものを選択し、教育活動に役立てている。</p> <p>【その他】</p> <p>⑥生徒会活動(西高祭・球技会等)をととして、生徒が何事にも主体的にかつ協力して取り組んでいる。</p>	<p>【チャレンジグループ活動】</p> <p>①各種ボランティア活動への参加を奨励する。ボランティア専用の掲示スペースを設け、計画的に参加を促す。</p> <p>②オープンキャンパスの意義を説明し、主体的に参加する姿勢を育てる。</p> <p>③-1 卒業生や有識者を招聘して、インプットを重視した講演会を行い、視野を広げたり考えを深めていく。</p> <p>③-2 チャレンジグループ活動の主幹となる分掌を設け、基本的な活動計画を策定し、活動実績と継続性を高める。</p> <p>【パイオニアホーム】</p> <p>④パイオニアホーム育成のための企画を早期に計画し実行することで、パイオニアホーム生としての自覚を高めさせる。</p> <p>【図書館活用】</p> <p>⑤-1 新聞や図書館の蔵書の有効活用をはかる。</p> <p>⑤-2 授業での図書館活用や図書館企画を推進する。</p> <p>【その他】</p> <p>⑥-1 生徒自身の手で計画的、主体的に行事の企画・運営を行える環境を整える。</p> <p>⑥-2 行事の実施要項を生徒自身が作成し、継続性を高めさせる。</p>			
人間力を高める生徒指導	①キャリア教育の充実・チャレンジグループ活動を基軸とした生き方探求						
	②地域のことを知り、将来、地域貢献活動のできる人材を育成する	<p>①社会や地域との関係を持つ機会が少なく、社会や地域の中で、自分の存在価値を見いだしたり、地域の理解が不十分。高校時代から社会や地域と関わる体験をととして、社会性やマナー、人との関わり方を身につけていくことが必要。</p> <p>②多くの生徒は上級学校に進学し、卒業後に地元を中心に社会人として活躍しており、高校時代から地元の良さ、課題を発見し、将来、地域振興を行っていくような人材育成をしていくことが必要。</p>	<p>①社会や地域と関わることで、社会や地域の中における自分の存在価値を見いだしている。</p> <p>②地域で行われている様々な行事や取組について理解することで、地域の良さや課題を発見し、将来、地域で生きる自覚を高め、将来の生き方を考えている。</p> <p>③高校という学校の枠を超えて、地域の方と触れ合う機会を持つことで、将来、社会人として生きていく上で必要な社会性やマナーを身につけている。</p>	<p>①-1 県外を含めた社会や地域の情報を効率よく収集し、活用させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝日新聞記事データベースの活用。 ・県内や地域に関する図書、全国各地の町おこし資料等の活用。 <p>①-2 地域の小学生、中学生を対象とした学習指導をボランティアで実施。</p> <p>②-1 地域振興に関する講演会をととして、地域の実態や課題を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジグループ活動の取組として実施 <p>②-2 県内の遺跡や伝統建造物、市役所等を訪問し、地域の歴史や伝統品を調査探求することで、地域の良さを再発見する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジグループ活動の取組として実施 <p>③-1 図書委員による県立図書館、県立博物館視察訪問。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化、情報発信の拠点に学ぶ <p>③-2 高校生さわやかマナーアップ運動期間を中心に、生徒・職員による地域の方と合同で挨拶運動の実施。</p>			

○:改善が見られ、良好な状況

▲:今後、改善が必要な現状

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

[90%] [80%] [60%] [40%] [30%]